



平成22年5月13日

各 位

会社名 日産化学工業株式会社
代表者名 取締役社長 木下次郎
(コード番号 4021 東証第1部)
問合せ先 経営企画部主査 松岡 健
(Tel 03-3296-8320)

中期経営計画「Vista2015 Stage I」スタート

— 持続的成長、そして飛躍へ —

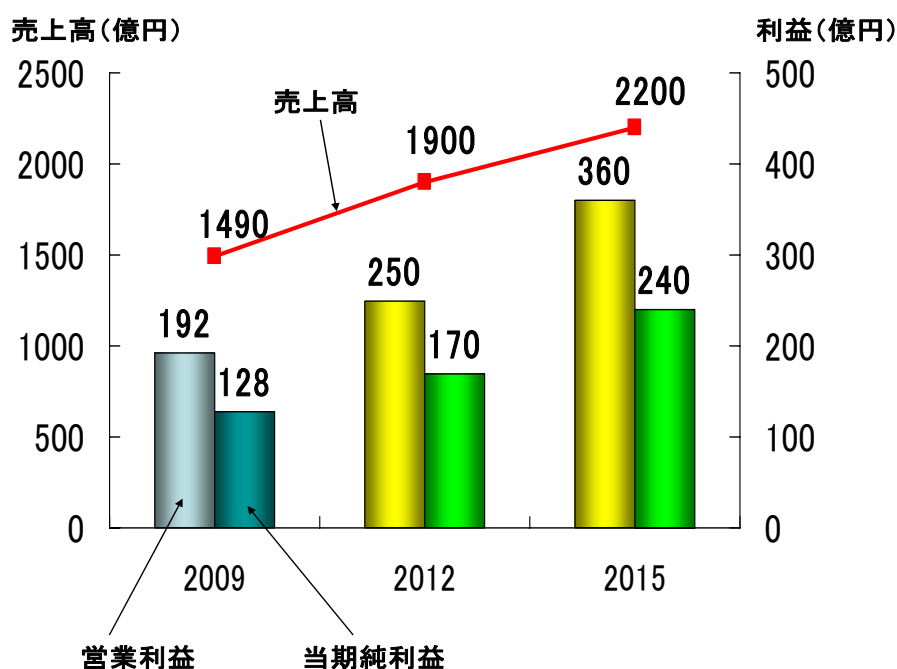
当社グループは、お客様とともに成長する「価値創造型企業」として、ブランド力を磨き上げ、企業価値を高めるために、中期経営計画「Vista2015」を本年4月よりスタートいたしました。

この計画は、2020年の当社グループのありたい姿を、「機能性材料(電子・無機・有機)とライフサイエンス(農薬・医薬)の2つの分野が成長牽引の両輪として発展・進化を続ける躍動感あふれる企業集団」と見据えたうえで、2015年のあるべき姿を「コアの事業領域である機能性材料が拡大を続け、ライフサイエンスが将来につながるパイプラインを充実し、化学品および関係会社が安定的な収益基盤を有する、成長力のある化学メーカーとしての地位を確立」することとしています。

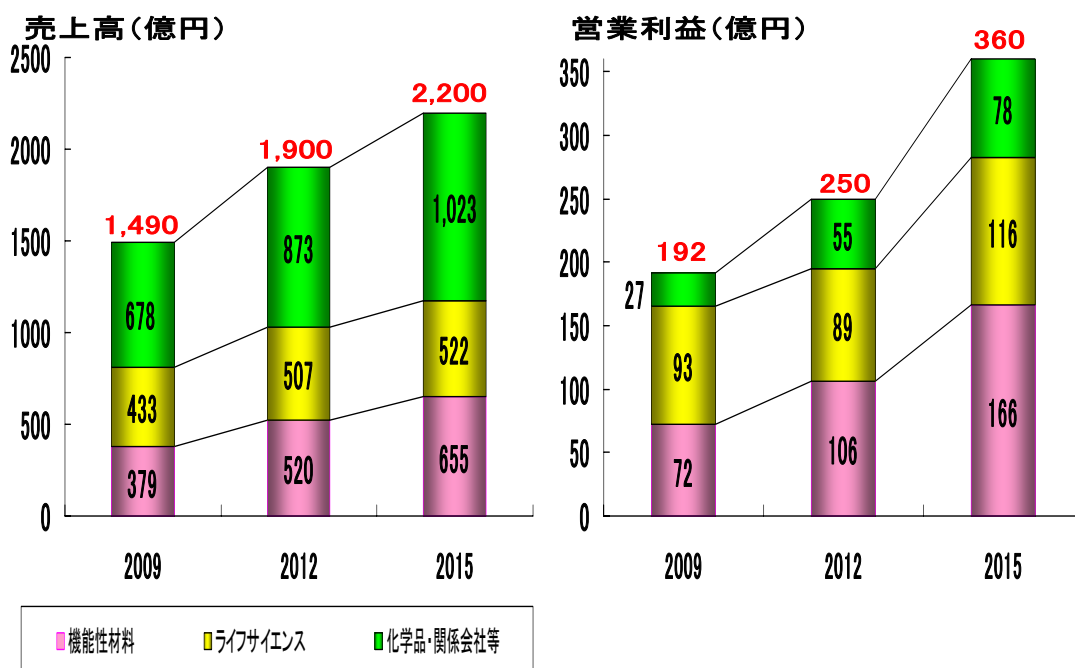
本計画の前半3か年(2010-2012)をStage I とし、機能性材料の伸長、化学品の拡販により収益を高める一方で、Stage II (2013-2015)以降の飛躍につながる新規事業・新製品開発のための先行投資を実施し、最終年度の2012年には最高益更新となる売上高1,900億円、営業利益250億円の達成を目標といたします。

さらに、Stage II では、新材料の創出、農薬事業の動物薬分野への参入、医薬品事業の安定したロイヤリティの獲得により、2015年には売上高2,200億円、営業利益360億円を目指してまいります。

損益目標



分野別 売上高・営業利益



Stage I の基本戦略

1. 新たな成長エンジンの創出

当社の将来を担う新事業・新製品の創出を加速します。

- 1) 幅広く探索してきた企画の中から厳選したテーマの集中的な開発による新規事業の立上げ
- 2) 各事業周辺での市場ニーズに基づく企画力強化による新製品の開発
- 3) 有望な事業・技術の国内外からの取得

2. 研究開発力の強化

「精密有機合成」、「微粒子制御」、「機能性高分子設計」、「生物評価」を当社のコア技術と位置づけ、この力を最大限に発揮する体制を構築します。

- 1) 生物科学研究所をはじめとする各研究所の拡充、小野田研究開発センター新設等による、新製品の継続的な創出と、現有製品の高付加価値化・低コスト化に向けた研究環境の整備
- 2) 海外を含めた産官学との連携による先端技術の導入などを通じた研究のレベルアップ
- 3) 研究関連の設備投資200億円、研究員430名→490名、研究開発費440億円

3. 海外での事業展開の加速

新興国を中心とする海外市場が今後の成長を担うことを再確認し、市場への密着度を高め、海外展開を加速します。

- 1) 現地スタッフの増員、育成強化を通じたグローバル化の促進
- 2) 営業、研究、開発、製造のあらゆる場面で海外拠点の事業基盤を強化

4. 人材開発の推進

「ありたい姿」実現のため、専門性のある質の高い人材開発に総力をあげて取り組みます。

- 1) 継続的に新たな価値を創造するための研究開発力、生産技術力の向上
- 2) 積極的な海外展開に向けた国際感覚の醸成

Stage Iにおける成長の源泉

2012年度の最高益更新に向け、以下の施策に取り組みます。

1. 機能性材料分野

(1) 電子材料

- 1) 既存材料(SUNEVER、BARC)のシェア維持、拡大
- 2) 光利用配向材(VA・IPS)、半導体多層材料(Si-HM・SOC)等次世代材料の市場獲得
- 3) 3次元実装材料、撮像素子材料、有機EL用材料等新規材料開発の促進と実需化
- 4) 研究開発の拡充、現地スタッフ強化による海外展開の加速

(2) 無機材料

- 1) 富山工場での製造第2拠点新設と、袖ヶ浦工場での高付加価値製品の生産拡大
- 2) 米国子会社の販売力強化による海外での拡販

(3) 有機材料

機能性ハイパーブランチポリマー、超分子ゲル、ポリ乳酸結晶核剤等による新規事業の立上げ

2. ライフサイエンス分野

(1) 農業化学品

- 1) チフルザミドを含む自社原体の拡販とラウンドアップによる安定的収益の確保
- 2) スルホニアウレア抵抗性雑草に有効となる除草剤NC-620の上市(2012年)
- 3) 動物薬分野参入(2013年)に向けた事業基盤の確立

(2) 医薬品

- 1) リバロの欧米向け出荷拡大と製法変更による製造原価の低減
- 2) 慢性動脈閉塞症治療薬、不整脈治療薬、血小板減少症治療薬の開発の確実なステージアップとロイヤリティ収入の獲得
- 3) 創薬力向上によるパイプラインの充実

3. 化学品分野

- 1) 高純度薬品、電子材料用テピックなど高付加価値製品の拡販
- 2) 液状エポキシ等新製品の早期実需化
- 3) 競争力の徹底検証と事業全般にわたるコストダウンの推進

経営指標

1. 高付加価値製品の拡販、コスト削減等により、売上高営業利益率を高めます。

2012年度目標13.2%、2015年度目標 16.4%

2. 資本を最大限活用し、高い収益性を維持します。

2012年度目標ROE 13%、2015年度目標ROE 15%以上

3. 将来に向けた投資を積極的に推進します。

Stage I 設備投資総額 460億円

4. 当社を支える研究開発に経営資源を傾斜配分します。

Stage I 売上高研究開発費比率 8.3%

5. 株主への積極的な利益還元策を実施します。

配当性向 30%以上

当社グループは、本計画を着実に遂行することで持続的な成長を果たすとともに、将来の更なる飛躍を確かなものとしてまいります。

以上